

平成 25 年 10 月 11 日開催

第 4 回子ども計画研究会における圏域設定に関する委員からのご意見

- ・ 圏域を考えていくうえでは、鉄道は重要な要素になる。整備計画は既存の 5 地域で考えていくことになると思うが、利用者は利用する駅で考えるのではないか。
- ・ 需要と供給を考え、施設を増やしていく際には、設定した圏域で計画をたてるだろうが、実際につくる際には駅との距離や利便性を考えていく必要がある。
- ・ どのように圏域を設定したとしても、メリット・デメリットがあり、問題は残ると思うので、行政として整備計画をたてやすい圏域を設定するしかないと思う。
- ・ 認証保育所や保育室、家庭的保育などを利用して、いずれ認可の保育園に、幼稚園と幼稚園の預かりを利用したいと考えている人は多い。そうした場合にこの施設を利用している人は 3 歳になったらこの認可保育園、この幼稚園に行けるといった道すじがあれば保護者も安心できる。その場合の道すじは、より細かい地域ごとに考えていく必要がある。整備計画と結びつけるのは難しいが。
- ・ 区域については現在の行政の地域割りを変えることは難しいと思うので、今のままでよいと思う。
- ・ 親の生活は行政区をまたがる。子どもの成長発達の中で、遊び場は重要なので、施設をどこでもいいからつくって、狭いところで固まっているという状態はよくない。送迎は利用駅近くで行い、子どもは巡回バスで別の環境の良い地域で過ごすといったことも今後は考えられる。圏域は 5 地域としても、利用については、広く考えてほしい。